

2020年6月15日 総務環境委員会 (田口一登議員)

請願審査

「台湾の世界保健機関年次総会への オブザーバー参加等に関する請願」を採択

6月15日の総務環境委員会で、5月臨時会で受理された請願第7号「台湾の世界保健機関年次総会へのオブザーバー参加等の支持に関する意見書提出を求める請願」について審査が行われました。

臨時会で受理された請願を 異例の速さで審査

通常、臨時会で受理された請願・陳情は次の定例会以後の閉会中審査で慎重審査されてきましたが、今回は新型コロナ感染症に関するものであり緊急に審査する必要があるため早急の審査をすべきという議会運営委員会での動議を受けて審査されたものです。

この請願は自・民・公の34議員が紹介議員になっています。「台湾の世界保健機関及び年次総会へのオブザーバー参加を支持し、これに協力することを内容とする意見書を国会及び政府に提出することを求める」という請願内容となっています。

WHO憲章から見ても 台湾のオブザーバー参加は当然

委員会審査では、田口一登議員が「請願採択は当然のこと」と日本共産党市議団の見解を述べました。田口議員が総務環境委員会で発言した内容は以下の通りです。

「日本共産党は、WHOへの台湾のオブザーバー参加は当然であると考えます。2009～2016年のWHO総会には台湾もオブザーバー参加しています。

ところが、中国は、台湾が現政権に代わって以降、『一つの中国』との立場を明確に認めていないことなどを理由に、オブザーバー参加に反対し、先月の総会では参加が見送られました。

しかし、感染症対・策は世界的な課題であり、地理的な空白があってはなりません。また、迅速な対・策で感染を封じ込めた台湾の経験を、国際社会が共有するうえでも、オブザーバー参加は有益であると考えます。

WHO憲章は前文で、「最高水準の健康を享有することは、人種、宗教、政治的信念または経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」「すべての人民の健康は、平和と安全を

達成する基礎であり、個人と国家の完全な協力に依存する」と述べています。この精神からみれば、台湾のオブザーバー参加は当然のことです。

以上から、本請願の採択を求めます。」

全会一致で採択

請願については自民・民主・公明の議員からも「サーズの経験でコロナへの早い対応につながった。」「国を挙げて感染症対策に努めてきたことが封じ込めにつながった」「効果的な対策を行ってきた台湾の経験を広げるためにも必要」などの意見が出され、請願は全会一致で採択されました。

意見書は各会派での協議のうえ、議会運営委員会から6月議会に提案するよう取り計らいが行われました。

台湾の世界保健機関年次総会へのオブザーバー 参加等の支持に関する意見書提出を求める請願

(受理 2020年5月13日)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、一世界保健機関(WHO)はハンデミックに当たると表明し、全ての国が積極的な対策を講じなければ、死者数が数百万人に上る可能性があるとの警告している。更なる感染拡大を防止し世界の人命・健康を守るためには、国際的な連携及び情報共有が必須であり、決して地理的空自を発生させてはならない。

WHOへの正式な参加が認められていない台湾は、2009年以後8年連続でWHO年次総会にオブザーバー参加し、保健衛生分野において国際貢献してきたが、2017年からはオブザーバー参加もできていない。

この度の新型コロナウイルスの対応をめぐるでも、WHOは、台湾で新型コロナウイルスの感染者が確認されているにもかかわらず、台湾の参加を認めていないため、感染例や予防措置の詳細について情報共有がなされていない状況である。

台湾は、重症急性呼吸器症候群(SARS)まん延の経験を基に、その後優れた防疫システムを構築しており、感染防止に貢献できる医療水準も有することから、WHO及び年次総会へのオブザーバー参加は、新型コロナウイルスの早期終息の一助になり得ると考える。

名古屋市には、台湾の方々が多く居住しており、仕事や観光で年間推計20万人以上もの方との交流もある。さらに、令和元年10月には台中市とパートナー都市協定を締結しており、今後も都市間交流の加速が見込まれているところである。

新型コロナウイルスの更なる感染拡大を防ぎ、世界の人命・健康を等しく守るため、貴議会には、台湾のWHO及び年次総会へのオブザーバー参加を支持していただきたい。

については、国際的な連携により世界の人命・健康を守るために、貴議会が次の事項を内容とする意見書を国会及び日本政府に提出されるようお願いする。

- 1 台湾の世界保健機関及び年次総会へのオブザーバー参加を支持し、これに協力すること。